

KIYOMURA  
IHEI



# 木村伊兵衛写真展

2020年

9月18日(金) - 10月31日(土)

開廊時間: 13:00-19:00 | 休廊日: 水曜・木曜

561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-1-1F  
<https://gsneucontemporary.wixsite.com/website-1>

G&S 根雨

伊兵衛さん、あなたのまなこの内側には、存在を肯定する強い力が…。そして、選びとられた、その情景、作品には「ふっ。」と感応せざるを得ない情感があふれるのです。

木村伊兵衛





木村伊兵衛「那覇の市場」1935年 ゼラチンシルバープリント

### 木村 伊兵衛 (1901-1974)

東京市下谷金杉上町生まれ。京華商業学校卒業。1924年、東京日暮里で写真館開業。33年、「日本工房」設立。敗戦前、東方社に係る。47年、サン・ニュース・フォトスに入社。独自の報道写真を展開。50年、日本写真家協会初代会長就任。日中文化交流にも貢献。『中国の旅』(74年、朝日新聞社)『木村伊兵衛写真集・パリ』(74年、のら社)他、雑誌掲載、写真集など多数あり。74年5月31日、17時32分、永眠。

### 石井 仁志 (1955-)

プロデューサー・ディレクター(G&S 根雨)

細江英公、北井一夫をはじめ、多くの写真家の展示を企画運営。近現代文化史研究、中島健蔵研究、音楽、写真、映像、文学と幅広い執筆活動を展開。清里フォトアートミュージアムのヤングポートフォリオ、新潟大学地域映像アーカイブを支援協力。「生誕百年 中島健蔵展」監修(2004年 東京都写真美術館)『占領期雑誌資料大系大衆文化編』全5巻(2009年 岩波書店)編集・執筆。

まっすぐな目、戦前そして敗戦後を通じ、写し撮られた膨大な瞬間。何が伊兵衛か？それは、秘策なしの無我の視座、ひたすらに、まっすぐな目。幼少の頃から、死の目前までカメラをかまへ、人間を、その日常を、あらゆる事象、時代を、伊兵衛流報道写真にし続けた。

江戸っ子気質を色濃くうけつぎ、照れて話には、べらんめえ。だが、教育では伝えることすら不可能な、深い知恵や、継続から生まれる技や、極め付きの芸を、一枚の印画が、伝えてくる。まして、多くの写真集や、数は少ないとはいえ、残されたプリントから、垣間見る伊兵衛世界の峻厳な頂は、時代を映し、そこにあった人々の思いを、情感とともに今に伝える。一見、柔らかな諧調で写し出された何気ない一枚に、たとえ大きな感動や、驚きの世界が揺がらなくとも、じわじわと観ているものを引き込み飲み込んでいく、伊兵衛の独特な回路が口を開けている。「どおだい、おつなもんだよ。」と声が聞こえる。(企画 石井仁志)

# 木村伊兵衛写真展

2020年9月18日(金) - 10月31日(土)

開廊時間: 13:00-19:00 | 休廊日: 水曜・木曜

### NEW OPEN

「G&S 根雨(ねう)」は大阪府豊中市 服部天神宮のお膝元・服部元町商店街に、あたらしくオープンするGallery&Shopです。ふたりのディレクターの視点から、写真を中心に近現代作家の作品や工芸など多彩な企画を展開。店内常設のショップスペースでは古書や写真集・アートグッズ等もお求めいただけます。植物の根をうるおすように、こころの根をうるおすアートをお届けできますように。今後のスケジュールはWEBサイト・SNSにてご確認ください。

## G&S 根雨

561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-1-1F  
E-mail: g.s.neu.contemporary@gmail.com  
<https://gsneucontemporary.wixsite.com/website-1>



入場無料、作品販売あり

\*「那覇の市場」ほか約20点+関連資料を展示。

\*新型コロナウイルス感染症の影響により、内容・スケジュール等が変更になる場合があります。詳細および最新情報はWEBサイトにてご確認ください。



阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分  
駐車場なし \*近隣のコインパーキングをご利用ください